



# 福寿建設株式会社

業務内容 建設業 創業 1955年 従業員数 19名  
所在地 宿毛市宿毛5361-7

## 将来の人材不足を見据えたデジタル化が 若手人材確保の強力な武器に

宿毛市で土木から建設事業を展開する「福寿建設株式会社」。将来を見据えた業務改革としてデジタル導入に踏み切った結果、これまで多くの人手と時間が必要だった起工測量や設計データ作成の作業量が約7割減。人的ミスや残業時間が減るだけでなく、離れた場所から操作ができることで、重機周りや危険箇所での作業がなくなり、生産性と安全性も向上しました。



### Q 御社のデジタル化の取組内容について教えてください。



お話を聞いたのは  
松下さ  
係長 工事部ICT推進課



国土交通省が推進するICT施工に対応する形で、現場を中心としたデジタル化を進めてきました。最初に導入した、一人でも素早く杭打ちや墨出し作業を行うことができる「杭ナビ」の導入により想像以上の便利さを実感。その後、ドローンや3Dスキャナを活用したデジタル化により、作業時間の短縮や安全性もアップしました。新しい機器やシステムの操作は若手社員が担い、社内でICTを活用する体制が徐々に整っています。

### Q 抱えていた課題と、デジタル化に取り組んだきっかけを教えてください。

人手不足と技術者の高齢化が進み、従来のやり方では将来に不安を感じていました。そこで社長が「今やらなければならない」と決断し、役員を説得してデジタル化を推進。令和元年に導入を決め、補助金も活用しながら段階的に進めました。当初は40～50代中心の現場から戸惑いの声もありましたが、実際に使うことで便利さを実感し、「さらに有効活用するにはどうすればいいのか」と全体の意識が前向きに変わっていきました。



### Q デジタル化に成功した秘訣を教えてください。

トップが先頭に立ち、現場と一緒に取り組んだことです。杭ナビは導入のハードルが低く、ICT施工の入り口として効果的でした。一方で、CAD操作などに苦戦する場面もありましたが、若手社員が中心となって習得し、社内で支え合う体制が生まれました。また、建設業を敬遠していた若者が「業界が変わっている」と入社してくれたことも想定外の成果です。デジタルを前向きに受け入れる風土と人材確保の好循環につながりました。



#### デジタル化導入までの期間とプロセス

- 2019年に1台目のレイアウトナビゲーターを導入
- 2021年より内製化チャレンジ型ICT施工を開始

#### 導入にあたっての人材確保 (ITベンダー含む)

- ICT施工が軌道に乗ってきたため、工事部ICT推進課を設け人材を採用

#### 導入したITツール

- レイアウトナビゲーター
- レーザースキャナー
- 3次元測量向けドローン (UAV)

#### 支援機関、補助金等の活用の有無

- IT導入補助金 (経済産業省)

#### 受賞にあたって

自社の規模で受賞できるとは思っておらず、正直驚いています。令和元年から少しずつ積み重ねてきた取り組みが評価され、大きな励みになりました。地方の建設会社でも挑戦できると実感しています。

#### これからデジタル化に取り組みたい事業者様へ

まずは踏み切りをつけ、現場と一緒に進める仲間をつくるのが重要です。ICT導入は発注者からの評価向上だけでなく、若手人材の確保にも一役買ってくれました。今後は世代交代を見据えながら、さらに若い人材を迎え入れ、今いる若手を育てることで、事業が継続的に回る体制を築いていきたいと考えています。将来を見据えた判断をすることで、会社の未来は確実に変わると感じています。



代表取締役  
福寿秀剛氏